

2017年12月26日

京都大学 原子核工学 李 在洪

### RPHA2017の感想

私は今年の8月に中国で開催されたRPHA2017に参加しました。私には初めての海外で開催された国際会議の参加であったため、大きな期待感を持って出国しました。

発表は、モンテカルロ計算のセッションで発表を行いました。しかし、私の研究テーマは核データの評価と実験のセッションテーマであったため、深度ある討論ができなかったです。研究テーマに対するセッション分類がちょっと残念でした。それにもかかわらず、発表のために多くの苦勞をしてくださったスタッフたちに感謝の気持ちを表します。

また日本、中国、韓国の発表者らの発表を聴講し、各国が追求する原子力の道を確認することができたため、私に大きな意味がある国際会議でした。特に発表の後のDinner Timeなどでは私の母国の韓国の脱原発の状況などについて聞くことができました。世界的に吹いている脱原発の風に韓国も例外ではありませんでした。研究者の立場から正確な情報を提供してまともな政策を推進できるようにする努力も重要であることを確認しました。なお、「安全であるから安心ができる」という話を通じるためには、国民の信頼を回復しなければならないと思いました。研究の以外でもいろいろな観点で考えることができた会議でした。



図1 可愛い成人パンダ



図2 可愛い赤ちゃんパンダ

中国の感想については、まず中国料理が口に合わないか心配しましたが、口によく合って良かったです。美味しかったです。特に発表の場である成道にはパンダ基地「大熊猫繁育研究基地」がありました。もちろん私も成道のパンダ基地に行って生まれて初めてパンダを見ることができました。世界で一番可愛い生物だと思いました。こんなに可愛いパンダが絶滅危惧種であることが悲しいでした。なお、パンダの保護のために中国政府の努力を見ることができた貴重な時間でした。成都で会った多くの人々は優しかったです。私が道で踏み迷う時にも、親切に詳しく説明してくれました。おかげさまでたくさんの思い出を作ることができました。中国人は不親切するだろうという偏見を持っていた私が恥ずかしく思われました。